

令和2年度後学期実施分「授業改善のためのアンケート」集計結果

I 講義・演習科目

質問・回答 (特に記載がない場合は 5:強く思う, 4:そう思う, 3:どちらとも言えない, 2:そう思わない, 1:全くそう思わない) ◇受講した授業科目に関して, 質問1~9は授業全体及び教員について, 質問10~17は自分自身についての評価項目となります。	後学期前半科目					後学期後半科目					後学期科目					スプリングセッション科目				
	専門		一般			専門		一般			専門		一般			専門		一般		
	建築	総合	化学	総合	共基	建築	総合	化学	総合	共基	建築	総合	化学	総合	共基	建築	総合	化学	総合	共基
Q1 授業は学習目標が達成できるよう適切に行われましたか。	—	4.5	—	—	—	—	4.4	—	—	—	4.2	4.1	—	4.2	4.2	—	4.6	—	5.0	5.0
Q2 授業はシラバスに沿って行われましたか。	—	4.0	—	—	—	—	4.4	—	—	—	4.2	4.2	—	4.2	4.2	—	4.5	—	4.0	4.0
Q3 授業はよく準備し、熱意を持って行われましたか。	—	5.0	—	—	—	—	4.2	—	—	—	4.2	4.1	—	4.1	4.1	—	4.7	—	5.0	5.0
Q4 授業は学生の反応や理解度を考慮しながら行われましたか。	—	4.0	—	—	—	—	3.9	—	—	—	3.9	3.9	—	3.9	3.9	—	4.6	—	5.0	5.0
Q5 授業は円滑に運ぶよう配慮していましたか。	—	4.5	—	—	—	—	4.1	—	—	—	4.1	4.1	—	4.1	4.1	—	4.6	—	5.0	5.0
Q6 話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	—	4.5	—	—	—	—	4.0	—	—	—	4.1	4.1	—	4.0	4.0	—	4.5	—	4.5	4.5
Q7 メディア講義で利用したシステムや講義動画・資料は、適切でしたか。	—	5.0	—	—	—	—	4.2	—	—	—	4.1	4.1	—	4.1	4.1	—	4.6	—	5.0	5.0
Q8 授業時間(オンタイム)外の学修(内容, 方法等)について, 担当教員から具体的(シラバスに明記を含む)に示されましたか。	—	3.5	—	—	—	—	4.1	—	—	—	3.9	4.0	—	4.0	4.0	—	4.4	—	4.5	4.5
Q9 課題(レポート, 小テスト等)に対し, 担当教員から学生へのフィードバック(評価や講評等の開示)はありましたか。	—	4.5	—	—	—	—	4.0	—	—	—	3.8	4.0	—	4.1	4.1	—	4.4	—	5.0	5.0
Q10 あなたにとって授業は全体として満足できるものでしたか。	—	4.5	—	—	—	—	4.1	—	—	—	4.0	3.9	—	4.0	4.0	—	4.6	—	5.0	5.0
Q11 あなたにとって学修した知識は今後役立つと思いますか。	—	4.5	—	—	—	—	4.2	—	—	—	4.2	4.1	—	4.1	4.1	—	4.7	—	5.0	5.0
Q12 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	—	3.5	—	—	—	—	3.8	—	—	—	3.9	3.7	—	3.8	3.8	—	4.4	—	4.5	4.5
Q13 この授業科目を1週(回)受けるに当たり, 授業時間(オンタイム)外で学修(予習, 復習, 課題等)にどのくらい取り組みましたか。 回答 5: 3時間以上, 4: 2~3時間, 3: 1~2時間, 2: 1時間未満, 1: 取り組んでいない	—	2.0	—	—	—	—	3.0	—	—	—	3.1	3.1	—	3.3	3.3	—	2.8	—	3.0	3.0
Q14 現時点での授業への受講率はどのくらいですか。 回答 4: 90%以上, 3: 70~89%, 2: 30~69%, 1: 30%未満	—	4.0	—	—	—	—	3.8	—	—	—	3.7	3.8	—	3.8	3.8	—	4.0	—	4.0	4.0
Q15 この授業科目に関し, 授業時間(オンタイム)外に, 担当教員に対し質問等を行いましたか。	—	2.0	—	—	—	—	2.5	—	—	—	2.6	2.6	—	2.6	2.6	—	3.1	—	5.0	5.0
Q16 この授業科目に関し, 授業時間(オンタイム)外に, 学生間で共に学修しましたか。	—	1.0	—	—	—	—	2.7	—	—	—	3.0	2.8	—	2.6	2.6	—	2.6	—	4.5	4.5

II 実験・実習科目

Q1 授業は学習目標が達成できるよう適切に行われましたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.3	4.2	—	4.3	4.3	—	4.8	—	—	—
Q2 授業はシラバスに沿って行われましたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.3	4.2	—	4.2	4.2	—	4.7	—	—	—
Q3 授業はよく準備し、熱意を持って行われましたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.3	4.2	—	4.4	4.4	—	4.8	—	—	—
Q4 提出物(課題, レポートなど)の書き方やまとめ方の指導は適切でしたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.2	3.8	—	4.2	4.2	—	4.4	—	—	—
Q5 授業は円滑に運ぶよう配慮していましたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.2	3.9	—	4.2	4.2	—	4.7	—	—	—
Q6 話し方は、明瞭で聞き取りやすかったですか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.2	3.9	—	4.3	4.3	—	4.5	—	—	—
Q7 メディア講義で利用したシステムや講義動画・資料は、適切でしたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.1	3.6	—	4.2	4.2	—	4.0	—	—	—
Q8 授業時間(オンタイム)外の学修(内容, 方法等)について, 担当教員から具体的(シラバスに明記を含む)に示されましたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.1	3.8	—	4.0	4.0	—	4.3	—	—	—
Q9 課題(レポート, 小テスト等)に対し, 担当教員から学生へのフィードバック(評価や講評等の開示)はありましたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.2	3.8	—	3.7	3.7	—	4.3	—	—	—
Q10 あなたにとって授業は全体として満足できるものでしたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.2	3.8	—	4.0	4.0	—	4.7	—	—	—
Q11 あなたにとって学んだ技術や実技などは今後役立つと思いますか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.5	4.1	—	4.1	4.1	—	4.4	—	—	—
Q12 あなたにとって授業の難易度は適切でしたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.9	3.7	—	4.0	4.0	—	4.2	—	—	—
Q13 この授業科目を1週(回)受けるに当たり, 授業時間(オンタイム)外で学修(予習, 復習, 課題等)にどのくらい取り組みましたか。 回答 5: 3時間以上, 4: 2~3時間, 3: 1~2時間, 2: 1時間未満, 1: 取り組んでいない	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	4.6	3.9	—	4.1	4.1	—	4.1	—	—	—
Q14 現時点での授業への受講率はどのくらいですか。 回答 4: 90%以上, 3: 70~89%, 2: 30~69%, 1: 30%未満	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.9	3.9	—	3.9	3.9	—	4.0	—	—	—
Q15 この授業科目に関し, 授業時間(オンタイム)外に, 担当教員に対し質問等を行いましたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.1	3.0	—	3.1	3.1	—	3.5	—	—	—
Q16 この授業科目に関し, 授業時間(オンタイム)外に, 学生間で共に学修しましたか。	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3.7	3.2	—	3.5	3.5	—	3.7	—	—	—

※1 「I 講義・演習科目」と「II 実験・実習科目」では質問内容が一部異なります。

※2 「—」の表記は, 該当科目がないことを意味します。

※3 各履修期及び授業区分において, 延べ回答者数が5名未満の場合は, 集計結果を公表していません。

令和2年度後学期実施分「授業改善のためのアンケート」集計結果の分析・コメント

1 建築・生活デザイン学科

コロナ禍のため、実験・実習科目の一部については感染対策を図りながら対面形式に戻し、その他の科目については前学期に引き続きリモート形式で実施した授業に対するアンケート結果となる。

【講義・演習科目】

コロナ禍前の令和元年度後学期アンケート結果と比較すると、相対的により高い満足度が得られていることから、受講生は繰り返しの授業視聴などオンライン授業の可能性を活用している姿が窺える。しかし、授業時間外での教員への質問や学生間での共の学修の機会が減少していることもわかる。登校の機会が限定されるため不可避的な現象となるが、リモート授業が継続する中、この部分に対する手当が必要となろう。同じくリモート授業で実施された令和2年度前学期と比すると、前回のコメントで改善課題とした課題等に対するフィードバックの値についての数値が上昇している。これは教員の授業方法の改善の成果と考えたい。

【実験・実習科目】

一部科目については対面形式で実施したこともあってか、コロナ禍前の令和元年度後学期と比較しても同様の高い数値が示されている。また、全面リモート授業となった令和2年度前学期と比べると全体としてより高い数値が得られている。そして限定的ながらも登校の機会が得られたことから、教員への質問や学生間での学修機会の数値が大きく上昇している。登校の機会が意欲的に活用されたことが理解できる。

この1年間の経験を基に、リモート形式と対面形式の各々のメリットを拾い上げ、教員間で共有しながら今後の授業にフィードバックさせていきたい。

2 ものづくり・サイエンス総合学科

Q1～Q12の評価項目について、講義・演習科目の場合、前年と同等な評価で、4点前後と良好である。さらに、前学期厳しい評価となった実験・実習科目においても、4点前後と良好であった。

Q13の授業時間外での学修時間については、大幅な改善がみられる結果となっているが、引き続きより一層の改善を目指したいと考えている。

Q15及び16については、前年に比べ低い評価となっており、メディア授業ならではの結果となっている。新たな状況に合わせた十分な教育を提供することが必ずしもできなかったこともあり、この経験を活かして一層の改善を図る必要がある。

3 短大一般教育

授業全体及び教員についてのQ1～9に関して、回答に3.9～4.2を得ていることは、学生が授業に概ね満足していると思われる。特に、Q4の回答が3.9であるが、これはオンライン授業で学生の反応と理解度を教員側が見極める難しさが現れているのではないかとと思われる。

また、学生自身についてのQ10～16の回答は2.6～4.1となっている。特に、Q15及び16は最低の2.6であり、授業時間外で教員や学生同士の質問がより多く出るような工夫をする必要があり、状況に合わせた十分な教育を提供することが必ずしもできなかったことが考えられ、一層の改善を図る必要がある。